



フードバンク関西ニュース

2015年10月14日 第33号

フードバンク関西は企業から寄贈された食品を
支援を必要とする人たちを支える非営利団体に
無償で分配する活動をしています。

2015年10月14日発行
認定特定非営利活動法人
フードバンク関西
事務所 芦屋市呉川町1-15
TEL/FAX 0797-34-8330
e-mail foodbank05@yahoo.co.jp
URL <http://foodbankkansai.org/>

新年度のご挨拶

フードバンク関西は、先月9月1日より平成27年度(会計年度が平成27年9月～平成28年8月)に入りました。昨年度は、「子ども元気ネットワークひょうご」がスタートし、支援対象に「貧しい環境の中でも元気に育つ子どもたち」を加えることができました。

この1年間に取扱った食品は175トンで、食品提供企業数、個人の皆様からの寄付件数も増加し、すぐにおかずに使える冷凍品など取扱食品の種類が増えました。フードバンク関西は、必要とする食糧の大半を地域の企業や市民の皆様からの寄付で集めており、平成27年度も、企業の皆様に私たちの活動趣旨をお伝えし、納品期限、販売期限が切れた食品、規格外の食品の寄贈をしていただけるよう、新たに参加して下さる企業が多くなるよう、働きかけを続けます。個人の皆様からの食品、特にお米のご寄贈も増えることを期待しています。

事業が拡大したことにより、運営費は800万円を超え、収支差額が77万5千円(減価償却を含めない)の赤字となりましたが、無事年度末を迎えることができましたことを、皆様のご理解とご支援の賜と、ボランティア一同、心よりお礼申しあげます。運営資金は、その大半を賛助会員年会費と寄付をお寄せ下さる皆様の温かなご支援で賄っています。当法人は専従職員を置かず、50数人のボランティアが作業を分担して活動しており、皆様からのご支援を背に感じながら、新しい年度も活動を続けていきたいと願っています。

新年度は、昨年度からの事業を継続し、「フードバンク」活動を土台にして、フードバンクで取り扱う食品を、(1)100か所余りの福祉団体への月3回の無償デリバリー、(2)行政との協働で困窮する市民に無償分配する「食のセーフティネット」、(3)貧しい中で子育てに頑張る母子家庭に月1回食糧を宅配便で届ける「子ども元気ネットワークひょうご」で、大切に活用していきます。

今年度、特に力を入れたい活動の一つに、フードドライブがあります。これは町内会、学校、職場、催事等で、家庭で使いきれなかった食品を持ち寄ってフードバンクに寄付する活動です。実は日本の食品ロス(まだ食べられるのに廃棄されている食品)の最大の発生源は家庭なのです。私たちの身近な台所で使い切れず、忘れられた「もったいない食品」を「命を繋ぐ大切な糧」として再び活かすことを通じて、缶詰1個、お米1カップからの市民間の助け合い、支え合いの輪が広がっていくことを願っています。

現在、全国でフードバンク活動をしている団体が40余りに増加しました。これら団体のネットワークを作っていく動きが活発化しています。フードバンク関西は、セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンスに加盟して、他のフードバンク団体とも情報交換、相互支援の輪に加わり、企業、市民の皆様がフードバンクに対する理解と信頼を深めていただき、フードバンク事業が日本社会の中にしっかり根付いていくことを目指します。(浅葉)



ボランティア一同、この1年間フードバンク関西を支えてくださった皆様に感謝いたします。今年度も、活動内容の充実を図る1年となるよう、心を合わせて努力いたします。

	合計	個人		法人	
食品の寄贈	約175トン	約8トン		約167トン	
正会員会費	280,000円	280,000円	28件		
賛助会員会費	2,923,400円	940,500円	130件	1,982,900円	132件
寄付・募金	1,741,793円	1,222,967円	135件+募金	518,826円	23件
ラッフル寄付	561,000円	561,000円	139件		
助成金	2,255,821円	CS神戸、セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス、住友ゴム、共同募金会、兵庫県社会福祉協議会、パブリックリソース財団			

(平成26年9月1日～平成27年8月31日)

平成26年度事業報告概要 (平成26年9月1日から平成27年8月31日まで)

1 事業活動の状況

フードバンク関西は、(1)余剰食品の受領と福祉団体への無償分配事業、(2)食のセーフティネット事業(行政から支援要請を受けた市民への緊急食糧支援)を継続事業として取り組み、(3)「子ども元気ネットワークひょうご」事業(困窮状態にある母子家庭への多面的サポート)をスタートすることができました。8月末現在、54人のボランティアが、命の糧である食べ物を、廃棄することなく大切に活かし、支援を必要とする人達の食生活を少し豊かにして自立への意欲を促し、市民が自らできることをして支え合う社会の実現に寄与したいと考え、作業を分担して活動に取り組んでいます。なお、平成25年12月、3回目になる認定NPO法人格を兵庫県から受けており、平成30年12月までの間、当法人への寄付は、所得税、法人税の優遇措置を受けることができます。以下に各事業の活動状況について説明します。

1-1 余剰食品の受領と福祉団体への無償分配について

(1) 食品取扱量、提供企業数、受取団体数

平成26年度の食品取扱総量は175トンとなり、前年度と比較して8トンの増加となりました。大型量販店から出るパン野菜果物の量が昨年度より減少しましたが、取扱食品の種類が増加しました。企業41社から約131トン、さらに15社から災害備蓄食品約3トンの寄贈を受けました。また、フードバンク団体(セカンドハーベスト・ジャパン、セカンドハーベスト・名古屋、大阪フードバンク)間のトレードにより約33トンを受け取りました。個人の皆様からは、324件の宅配便等により送り届けられた食品およびフードドライブによる食品など約8トンの寄贈を受けました。これらの食品を活用していただいた福祉団体、福祉施設数は、食のセーフティネット、子ども元気ネットワークを含めて100団体でした。

(2) フードドライブ

本年4月以降、「家庭で余った食べ物はフードドライブに出そう」、「缶詰一つ、米カップ一杯からの助け合い」を訴え、家庭で余った食品を集めるフードドライブに力を入れました。5月には株式会社シャープの労使共同ボランティア組織主催の「若草山グリーンキャンペーン2015」に、当法人がフードドライブで共催させていただくなど、17団体との協働による延21回のフードドライブを実施し、約0.8トンの寄贈食品を受け取りました。フードドライブにより最も必要とする食材を効果的に集めることが期待されるため、今後、地域の定常的な行事として定着するように、働きかけていきます。

1-2 食のセーフティネットについて

(1) 地域の拡大と支援件数の増加

平成24年から着手した、困窮した市民を対象にした行政との協働による食のセーフティネット事業は、芦屋市、尼崎市、伊丹市、西宮市、川西市に加えて、平成27年4月に宝塚市が加わり、仕組みの稼働地域が拡大しました。尼崎市では、協定先の尼崎市民福祉振興協会の解散にともない8月末に市と直接の事業協定書が交わされました。食品提供件数は昨年度並みの221件でしたが、今後、支援件数は大きく増加すると思われます。この事業の課題は、保存性が高く常温保管ができ、調理環境が整っていないところでも使用可能な食品を継続的に確保することです。

(2) 第2回実務者による食のセーフティネット研修会の開催

平成27年1月20日、この事業を開始して3年を経過したことに伴い、現状の問題点を検討するための、「食のセーフティネット実務者による研修会」を、芦屋市、尼崎市、川西市、伊丹市、西宮市、神戸市、兵庫県の行政および社会福祉協議会の担当者37名と当法人スタッフ12名の参加を得て、あしや市民活動センターで開催しました。関西大学教授松原一郎先生の議事進行により、この事業を長期継続するために、行政との互恵的な関係作りを図る必要があり、今後の展望を含めて話し合いました。

1-3 子ども元気ネットワークひょうごについて

フードバンク関西と認定NPO法人ウイメンズネットこうべ、NPO法人フリーヘルプが協働して、4月から新しいプロジェクト「子ども元気ネットワークひょうご」を立ちあげました。女性と子供支援で実績を持つウイメンズネットこうべが窓口となり、貧困な環境で子育てをする母子家庭を対象に会員を募り、ウイメンズネットこうべは相談事業と子どもたちへの学習支援、フードバンク関西は月1回の食糧支援、フリーヘルプは3か月に一度の衣料品支援をします。初年度は20世帯への支援を目標にしました。

1-4 広報活動

市民の皆様には私たちの活動を知っていただくことが運営基盤強化に繋がるため、広報活動に力を入れました。

(1) インターネットの活用、プレゼンテーション活動

ホームページ、FACEBOOK、GOODDO等、インターネットを活用して広範な市民への情報提供を行っています。また、要請があれば、地域の市民団体や大学などに出向き、活動紹介を行っています。

(2) 報道機関からの取材

①関西テレビ「スーパーニュースアンカー」(平成26年10月20日放映) ②JCOMによる世界食糧デーの特別番組(平成26年10月16日放映) ③NHK学園高校の冊子 ④神戸新聞「伊丹市からの粉ミルクの提供」(平成27

年1月29日朝刊) ⑤神戸新聞「子ども元気ネットワークひょうご」(平成27年4月2日朝刊) ⑥朝日新聞「子ども元気ネットワークひょうご」(平成27年5月9日朝刊) ⑦神戸新聞社説(平成27年5月5日朝刊) ⑧ここむす会報誌2015夏号 ⑨共同募金 News2015 vol.1「兵庫の福祉特集号」 ⑩消費者情報2015年6月号

(3) 第6回ラッフルキルト

平成26年秋に開催の第6回ラッフルキルトでは、キルト作家の先生方から3点の作品、数多くの協賛企業から寄贈された食品類、ホテルの宿泊クーポン等、209点の賞品を揃えることができ、ラッフル寄付総額は56万1千円になりました。キルト作品の一つは、作家の先生から母子生活支援施設へプレゼントされました。

(4) 小学生向き食育プログラム

子どもたちに「食べ物は命の糧、大切にしよう!」というメッセージを伝えることを目的に、兵庫県社会福祉協議会からの助成金50万円を得て、NPO法人C・キッズネットワークと協働で小学校低学年向き食育プログラムを制作しました。平成27年7月25日の芦屋市民活動フェスタで、フードバンク関西スタッフによる初回講座を行いました。引き続き高学年向きプログラムを協働で制作しています。

2 フードバンク関西への評価について

2-1 賛助会員、個人の皆様からの支援

賛助会員会費263件2,923,400円、一般寄付金158件と募金を合わせて1,741,793円、ラッフル寄付金139件561,000円のご支援があり、当法人運営資金の65%を占めています。事務所に宅配便で届けられる食品の寄付も本年度324件7.4トンとなりました。

2-2 本年度受領した助成金

- ①平成26年10月、コミュニティ・サポートセンターこうべから30万円(活動運営費用)
- ②平成26年10月、共同募金会から30万円(平成26年度社会福祉関係団体NPO支援事業配分金)
- ③平成27年2月、セカンドハーベストジャパンアライアンスから60万円(設備のイノベーション費用)
- ④平成27年4月、住友ゴム株式会社から25万円(子ども元気ネットワークひょうご等の配送費用)
- ⑤平成27年4月、兵庫県社会福祉協議会から50万円(食育プログラム作成費用)
- ⑥パブリックリソース財団(クレジットカードによるギブワン寄付)から年度合計30万円

3 フードバンク関西が抱える問題点

3-1 食品の種類ごとの需給バランス

本年度、取扱食品の種類については、新たに参加した食品企業からの冷凍食品が加わり、副食材料として活用できる食材が多くなりました。しかし、食のセーフティネット事業の拡大に伴い、この事業で必要とされる常温保管で安全性が高く、調理がほとんど不要な食品、すなわち、米、アルファ米、缶詰、レトルト食品は、在庫量は従来通りですが、出庫量は増す一方となりました。家庭からの余剰食品を集めるフードドライブがその解決の一手段となり得ると期待されますが、今後これら食品をどの様にして集めるかという問題解決が急がれます。

3-2 運営費の安定的確保

当法人は、運営費の大半を寄付に頼っており、皆様の応援を受けて活動できることをボランティア一同大変感謝しております。現時点で、現行の規模を保ちながらの事業継続は、賛助会員の皆様、一般市民の皆様からの継続的支援があるという前提のもと、地道に継続する決意ですが、規模の拡大に伴う大きな変化に対応する準備がないことが将来に向けての問題です。

4 今後の展望

日本には膨大な量の食品ロスがあり、これらの食品を食べ物として活かし、支援を必要とする人達に届けるフードバンク事業は、まだまだ拡大発展する必要があります。フードバンク関西は、地域における地道な活動を継続して、無駄のない、市民が互いに支え合う地域社会の実現に寄与したいと考えています。ボランティア一同、皆様のご支援を背に受けて、事業を継続していきます。今後とも、私たちフードバンク関西の活動に、ご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成26年度会計報告要旨 (平成26年9月1日~平成27年8月31日)

26年度収入		26年度支出	
会費(正会員、賛助会員)	3,203,400円	事業費	6,644,182円
寄付・募金	2,302,793円	管理費	1,246,476円
助成金	2,255,821円	固定資産	882,328円
雑収益他	235,320円	支出合計	8,772,986円
収入合計	7,997,334円	収支差額	-775,652円

「第7回ラッフルキルト」のご案内

今年も、寄付していただいた方にラッフルチケットをお渡しし、その中から抽選でプレゼントが当たるというお楽しみがある「ラッフルキルト」を開催いたします。今年もキルト作家の皆様をはじめ、たくさんの協賛企業の皆様から、素敵なプレゼントをご寄贈していただきました。ぜひ、皆様のご参加をお待ちしています。



ラッフルチケット

6枚綴り1組1,000円(何組でもOKです)

お申し込み・ご送金先

ゆうちょ銀行 口座番号 00940-4-221867

加入者名: 特定非営利活動法人フードバンク関西

申込期限 平成27年11月28日(土)

抽選日・会場 平成27年12月4日(金)

TOOTH TOOTH maison15th (神戸)

地域で活動紹介やフードドライブ

地元のお祭りに参加し、活動紹介やフードドライブを楽しく行っています。昨年度、17団体と協働で延21回のフードドライブを実施しましたが、今秋も川西エコのつどい(川西消費者の会)、ふれあい兵庫 福祉・健康フェア(神戸市兵庫区社会福祉協議会)、ひがしなだふれあいフェスタ(神戸市東灘区社会福祉協議会)等で実施します。賞味期限が1カ月以上、常温保存、未開封の食品をお持ちください。また、東灘 GENKI 祭(神戸市東灘区川井公園)に参加し、フードバンク活動を訴えていきます。



平成26年度通常総会を開催しました

第12回通常総会が10月10日(土曜日)に芦屋市の木口記念会館にて開催され、平成26年度の事業報告、決算報告とその監査報告、平成27年度(27年9月1日~28年8月31日)の事業計画とその予算等について審議が行われ、いずれも満場一致で承認されました。詳細は、本紙面をご覧ください。



食育プログラム 「食べ物大切に！」

平成27年7月25日の芦屋市民活動フェスタで、フードバンク関西スタッフによる初公演は参加者の皆様に大好評でした。



ホームページをリニューアル

ボランティアさんのご尽力によりホームページを10年ぶりにリニューアルしました。まだテスト中ですが、ぜひ、ご覧ください。



<http://foodbankkansai.org/>

編集後記

最近、企業からの災害備蓄品の寄贈が多くなってきました。官庁や企業では、たくさんの災害備蓄品が貯蔵されています。例えば、人口40万人の某市ではアルファ米だけでも10万食も保管されています。これらを使用することなく賞味期限を迎えることは大変ありがたいことですが、食品ロスの面から廃棄されることなく活用できるように工夫しなければなりません。また、各家庭でも普段使いの食料品を少し多めに買い置きし、賞味期限内に計画的に食べるなどの工夫が必要ではないでしょうか。(井上)

余った食べ物を預かって、必要なところに届けます

特定非営利活動法人フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL/FAX 0797-34-8330

e-mail foodbank05@yahoo.co.jp URL <http://foodbankkansai.org/>

寄付のご送金方法 郵便振替口座 00940-4-221867 口座名義 特定非営利活動法人フードバンク関西



フードバンク関西の事業は「赤い羽根共同募金」の助成を受けて実施しています。